

東臼杵南部地域の普及活動（普及活動月報）

令和7年8月 東臼杵農林振興局
(東臼杵南部農業改良普及センター)

目次

- I 管内農業・農村の出来事や新たな動き (P 2)
 - 1 【椎葉村】畜産経営体の法人化に関する相談
 - 2 【日向市】日向市農業経営改善計画認定審査会の開催
 - 3 【日向市】6次産業化に向けた相談会を開催

- II 主な普及指導活動等の取組
 - 1 プロジェクト（総合、専門）に関する普及活動 (P 3～4)
 - [総合：担い手確保・育成、雇用労力の確保、中山間地域づくり 等]
 - [専門：茶(中山間)、肉用牛繁殖(若手)、冬春ミニトマト、ほうれんそう(椎葉)、へべす、スイートピー 等]
 - 1 【全域】農業者研修（ベーシック研修）の実施
 - 2 【日向市】新規就農者への面談による状況確認を実施
 - 3 【日向市・美郷町】3件の就農相談に対応
 - 4 【美郷町】加工グループの作業工程を聞き取り、レシピ作成に着手
 - 5 【美郷町】牛舎のサシバエ対策試験の効果を確認
 - 6 【全域】日向地域の肉用牛生産振興に係る検討会を開催
 - 7 【美郷町】くりの収穫時の注意点等について指導
 - 8 【美郷町】くり園地でのドローン防除試験を実施
 - 2 プロジェクト（総合、専門）以外の普及活動(一般活動) (P 5)
 - 1 【日向市】水稻の奨励品種決定調査現地試験ほの坪刈りを実施
 - 2 【日向市】施設胡瓜専門部会地域ワーキンググループ研修会（植物生理）を開催
 - 3 【諸塚村・椎葉村・美郷町】ラナンキュラスの定植期の管理について指導
 - 4 【椎葉村】夏秋ミニトマト巡回を実施



東臼杵南部農業改良普及センター
ホームページ

I 管内農業・農村の出来事や新たな動き

1 【椎葉村】畜産経営体の法人化に関する相談

1日、椎葉村の畜産経営体に対し、法人化に向けた相談に対応しました。

今回の検討の結果、法人化については、経営と家計の分離や休暇制度の検討、役割分担など、法人化に向けた準備のみにとどめることとなりました。

所得が継続して高くなるようであれば、以降は専門家派遣を行い、シミュレーションを実施し、具体的な検討に移行する予定です。

2 【日向市】日向市農業経営改善計画認定審査会の開催

29日、日向市役所で農業経営改善計画認定審査会が開催され、新規申請1件について、関係者と審査を行いました。

認定農業者は、地域の柱となる農業経営者であることから、厳しい情勢の中でも目標達成に向けて経営改善が図られることを期待します。

3 【日向市】6次産業化に向けた相談会を開催

29日、普及センターで、みやざきフードビジネス相談ステーションの専門員を招聘し、6次産業化経営改善地域相談会を開催しました。専門員から相談者へ聞き取りを行いながら、対象品目の経営安定、ターゲットの絞り込み、売価設定、リサーチ等も含め、しっかりとした方向性を固めるよう助言がありました。

今後も引き続き、それぞれの分野における専門家と連携しながら農業経営者等の経営発展に向けた支援を実施していきます。

Ⅱ 主な普及指導活動等の取組

1 プロジェクト（総合、専門）に関する普及活動

[総合：担い手確保・育成、雇用労力の確保、中山間地域づくり 等]

[専門：茶(中山間)、肉用牛繁殖(若手)、冬春ミミズ、ほうれんそう(椎葉)、へべす、アイドール 等]

1 【全域】農業者研修（ベーシック研修）の実施

4日（経営基礎）、19日（農地制度他）、22日（植物生理）、25日（GAP）、26日（病害虫防除）、27日（労務管理他）、28日（マーケティング）について、普及センターで宮崎方式営農支援体制農業者研修（ベーシック研修）を開催し、農業者延べ18名の参加がありました。農業大学校農業総合研修センターのリカレント研修のWEB受講で、参加者間の話し合いも活発に行われ、有意義な研修となりました。

今後も引き続き農業者研修を開催し、農業経営者等の能力向上を支援していきます。

2 【日向市】新規就農者への面談による状況確認を実施

26日及び27日の2日間、JA美々津支店及び日向市役所で、JA・日向市・振興局・普及センターで構成するサポートチームにより、新規就農者等6名の就農状況を確認しました。

今回は、面談形式で経営状況の聞き取りを行い、対象者の課題把握を支援するとともに、改善に向けた助言を行いました。

年明け以降には現地での就農状況の確認を予定しており、引き続き、新規就農者の早期経営安定に向け支援していきます。

3 【日向市・美郷町】3件の就農相談に対応

8月は、日向市で1件、美郷町で2件、計3件の就農相談があり、関係市町やJAと連携して対応しました。

相談者は、肉用牛繁殖、野菜、果樹の経営を希望しており、親からの事業承継や融資活用に向けた準備に関する相談でした。

事業承継を希望する方には、家族間での協議を提案するとともに、活用可能な事業を説明しました。融資活用を検討中の方については、新たな栽培方法に挑戦する事例であったため、小規模での試験栽培を行い、その結果を踏まえて関係機関や融資機関と検討を進めるよう助言しました。

今後も、相談者の状況に応じた的確な相談対応ができるよう努めていきます。

4 【美郷町】加工グループの作業工程を聞き取り、レシピ作成に着手

22日、美郷町南郷の食品加工場で、加工グループ1組を対象に、商品のレシピ化に向けた作業工程を確認しました。

本取組は、無形資産である加工技術を次世代に承継することを目的としたものであり、加工に必要な原料や器具の確認に加え、作業工程を撮影し、レシピ化に必要な情報を収集・記録しました。

今後は、収集した記録を基にレシピを作成し、加工技術を次世代へ引き継ぐ取組を支援していきます。



【作業工程の一場面】

5 【美郷町】牛舎のサシバエ対策試験の効果を確認

5日、牛舎サシバエ発生抑制を目的に、美郷町で実施している牛舎周辺の雑草対策試験の効果確認のため、サシバエ発生数と、雑草対策毎の抑草効果を調査しました。

除草剤散布区は慣行の機械除草区に比べサシバエ発生数を抑え、雑草が枯死することで、抑草効果も高いことが確認できました。

試験を実施している農家では、2週間おきに実施している草刈りが大きな負担となっていることから、除草剤散布区のサシバエの発生抑制効果に加え、負担軽減効果を調査し、より良い雑草対策を確立していきます。



【除草剤で雑草が枯死し、サシバエ発生数を抑えた法面】

6 【全域】日向地域の肉用牛生産振興に係る検討会を開催

5日、普及センターで地域の課題共有と解決策の見直しを目指す検討会を開催し、日向地域の畜産関係者22名が出席しました。

会議では、高齢化や後継者不足、和牛生産からの離農が深刻化する中で、初期投資費用の高さや「きつい」「休みがない」といった畜産のイメージが担い手確保の大きな障壁であることが浮き彫りになりました。

また今後は、若手層へのニーズの深掘り、財政的支援の強化、ヘルパー制度の充実、利益率向上の視点、耕畜連携や堆肥処理の問題解決、そして廃業農家の空き牛舎活用など、多角的なアプローチで課題に取り組む必要性が確認されました。



【肉用牛生産振興に係る検討会】

7 【美郷町】くりの収穫時の注意点等について指導

20日、JA西郷栗選果場および中区改善センター、21日、JA日向南郷支店で、美郷町栗部会員62名、関係者3名が参加し、くりの出荷目揃え会が開催されました。

JAから出荷要領等の説明が行われた後、普及センターから収穫時の注意点、台風被害（枝折れ）発生時の処理等について説明を行いました。出荷目揃えでは生産者が実際に果実を見たり、触ったりしながら、選別基準を確認しました。

今年は8月25日から選果場での出荷受入が始まりました。生理落果が少なく、着実数が多い傾向での実りの秋を迎えています。



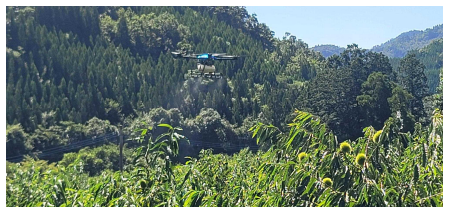
【出荷目揃え会】

8 【美郷町】くり園地でのドローン防除試験を実施

5日、美郷町南郷鬼神野地区（1か所、約60a）で、きじの防除組合による2回目の薬剤散布実証試験が実施されました。

ドローン防除で登録がある殺虫剤を使用し、計画どおり散布できました。普及センターは農薬の使用方法等について適用どおりに調整されているか確認し、美郷町役場とともに現地で散布状況の安全面などの確認を行いました。

今後は8月下旬頃から9月に園地で虫害発生状況を調査し、防除効果の評価を行います。



【くり園でのドローン農薬散布】

2 プロジェクト（総合、専門）以外の普及活動（一般活動）

1 【日向市】 水稻の奨励品種決定調査現地試験ほの坪刈りを実施

5日、日向市庄手に設置している水稻奨励品種決定調査現地試験ほの坪刈りを行いました。この試験は、宮崎県の奨励品種を決定するために、現地適応性を検証するもので、今年は4月に加工用向けの新系統「宮崎57号」と、対照品種として「宮崎52号」、「夏の笑み」の田植えを行い、その後は生産者に管理を委託しました。

今後は収量調査を行い、その結果に基づき、地域の気候風土に適応し、かつ高い収量性と品質を兼ね備えた、より優れた品種の選定を進めていきます。

2 【日向市】 施設胡瓜専門部会地域ワーキンググループ研修会（植物生理）を開催

22日、JA美々津支店で、生産者4名、関係者2名が出席し、施設胡瓜専門部会の地域ワーキンググループが開催され、植物生理について学びました。

研修会では、植物の光合成などの生理について学び、温度だけでなく湿度や日射量に合わせたかん水など日頃の管理にどのように活かしていくか検討しました。

令和8年産の冬春出荷を行う施設きゅうりの定植は、9月から10月に行われる予定です。環境データを活用し、収量向上に繋がるように支援していきます。



【地域ワーキンググループ研修】

3 【諸塚村・椎葉村・美郷町】 ラナンキュラスの定植期の管理について指導

8日、JA諸塚支店で生産者4名、関係者4名が出席し、ラナンキュラス実績検討会が開催されました。令和7年産は、作全体を通して品薄による高単価となりましたが、3月の気温が高くなってきた頃から全般的に出荷量が増え、単価が下がりました。

普及センターからは定植期の管理について、かん水の重要性を説明し、試験場が研究成果として報告した新たな技術「細霧冷房の活用効果」について紹介を行いました。

生産者同士でも、前作で気になった作業について活発に情報交換が行われ、次作に向けた意欲が感じられました。

4 【椎葉村】 夏秋ミニトマト巡回を実施

25、26日に、JAと駐在で、夏秋ミニトマト生産者の全戸巡回を行いました。今年は夏場の高温に加えて、7月の曇雨天続きによる日照不足や高湿度が影響し、草勢低下や着果不良、病害虫の発生などが見られました。

JAからは販売状況の伝達、駐在からは草勢維持や病害虫防除指導、熱中症への注意喚起を適宜行いました。高温の影響で収量が減少傾向ですが、生産者からは「単価が向上してくる時期に、しっかり採れるよう頑張りたい」と前向きな声が多数聞かれました。



【適正防除等の注意喚起】